

継続的な見える化の目的の整理（1/2）

各関係者にとって納得感のある制度となるよう、それぞれの視点から継続的な見える化の目的（又は効果）を整理することが重要である。

整理案

行政機関	国民	保育・幼児教育の利用者	保育士等の求職者	施設・事業者	民間の支援団体、研究者、コンサルタント等
<ul style="list-style-type: none"> 保育・幼児教育の従事者等の処遇改善や配置改善等が、適正に実施されているかどうかの検証。 待機児童が発生している地域、人口減少が進行している地域など、多様化する地域の実情に応じた適正な公的支援が実施されているか等の公定価格の検証・見直しに向けた基礎データの把握。 保育士不足、デジタル化の進展、物価・光熱費の上昇等、社会情勢の変化が経営に与える影響を踏まえた的確な支援策の検討のための基礎データの把握。 経営実態調査の補完。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の保育・幼児教育が置かれている現状・実態の理解が促進され、子育て施策に関する問題意識や将来への展望が描きやすくなる。 自身の支払った税金が適正に使用され、社会的価値の創出に役立っているかを確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の利用する事業所・施設に対する理解が深まり、信頼が高まることで、安心して利用を継続できる。 施設・事業所間の情報の比較・検討を通じて、自身のニーズにより適した支援を選択できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設・事業所の運営方針や給与水準等を総合的に検討し、働きたい職場を自律的に選択できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 業界全体の経営指標を参考として、自身の経営を顧みたり、改善したりすることができる。 自身が行う活動を積極的に開示することで、現在の利用者の信任や潜在的な利用者の認知を得ることができる。 適時かつ、継続的な経営情報の届出を通じ、経営実態に即した公定価格や支援措置等が設定されることで、財務的な安定性を確保しつつ保育の質の向上に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 充実した基礎データの活用により、第三者的視点から保育・幼児教育分野における新たな課題の提起や、解決策の提言を行うことが可能となる。

継続的な見える化の目的の整理（2/2）

（参考）医療・介護分野の状況

医療分野	介護分野
<p>医療法人の経営情報を把握・分析するとともに、その分析により国民に丁寧な説明するため、新たな制度として医療法人の経営情報を収集してデータベースを構築する。これにより、以下の点に活用することが可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国民に対して医療が置かれている現状・実態の理解の促進 • 効率的かつ持続可能な医療提供体制の構築のための政策の検討 • 経営への影響を踏まえた的確な支援策の検討 • 医療従事者等の処遇の適正化に向けた検討 • 医療経済実態調査の補完 <p>また、医療法人の経営情報のデータベースは、医療機関の経営分析に活用することも可能となる。</p>	<p>介護サービス事業者について、</p> <ul style="list-style-type: none"> • 介護サービス事業者の経営状況をもとに、国民に対して介護が置かれている現状・実態の理解の促進 • 介護サービス事業者の経営状況の実態を踏まえた、効率的かつ持続可能な介護サービス提供体制の構築のための政策の検討 • 物価上昇や災害、新興感染症等に当たり経営影響を踏まえた的確な支援策の検討 • 実態を踏まえた介護従事者等の処遇の適正化に向けた検討 • 介護報酬に関する基礎資料である介護事業実態調査の補完 <p>に活用することが可能となるという観点から、経営情報を収集・把握することは重要である。</p> <p>○また、介護サービス事業者側も、マクロデータを自事業所の経営指標と比較することで、経営課題の分析にも活用可能と考えられる。</p>

出展：第2回 子ども・子育て支援制度における継続的な見える化に関する有識者会議 資料1より該当部分を抜粋して再掲

🔍 医療・介護分野での見える化の目的の整理

「国民」、「行政」、及び「事業者」の3者の目線から、目的（又は効果）が整理されている。